

1 単元名 「笠間焼」を受けつぎ・生かすまち（笠間市）

2 目標

茨城県を代表する笠間焼に関心をもち、その産地である笠間市のよさや人々の生活について意欲的に調べたり、笠間焼に携わる人々の工夫や努力について考えたりする活動を通して、様々な人々が協力して、茨城県内外に誇れる伝統工芸「笠間焼」を受けつぎ生かしながら生活していることがわかる。

3 単元について

○児童の実態

これまで、子どもたちは、「くらしと水」の学習において、「水をつくる仕事にかかせない人はだれだろう。」という課題のもと、話し合い活動を経験している。始めの頃は、「浄水場の人」や「水源林を守る人」など、子どもたちは、一面的な見方・考え方しかできていなかった。その後、全体での話し合いを通して、他の違った考え方にふれていくことで、「水は浄水場の人や水源林を守る人、ダムを守る人、地域の人々など様々な人々の協力があってつくられている。」という多面的な見方・考え方ができるようになってきた。

そこで、子どもたちに「笠間焼には、どんな人がかかわっていると思いますか。」という意識調査をしてみると、作っている人や笠間市の人々、笠間市の昔の人たち、お店の人というような回答が見られた。自由記述であったが、複数回答をした児童は少数であり、多面的な見方・考え方はまだ十分に育っていない傾向が見られる。

そこで、本単元では、多面的な見方・考え方をさらに深めていくために、個人追究後に全体での話し合いを仕組むことで、「友達と自分の違いはどこか」「根拠は何か」などの思考をしながら多面的な見方・考え方ができるようにしていきたい。

○教材観

本単元は、伝統的な工業を継承し発展させていくために活動している人々の工夫や努力、協力の様子を調べ、その地域や人々の生活の特色がわかるようになることをねらいとしている。

笠間焼は江戸時代の中期からつくられている茨城県の誇る伝統的工芸品の一つである。しかし、その長い歴史の間には、戦後の生活様式の変化により、需要が減少し危機的な状況に陥った時期もあった。それを乗り越え、県内外からの支持を受け、再び人気が高まってきたことはあまり知られていない。

そこで、本単元では、具体的に伝統工芸士の増渕さんの笠間焼づくりに取り組む姿や茨城県窯業指導所の久野さんや協同組合の深町さんの「笠間焼を盛り上げていきたい」という思い、市の商工観光課の菅井さんの笠間焼を通してまちづくりに取り組む姿を取りあげていこうと考えた。そして、これらの人々の姿を通して、人々が危機的な状況を人々がどう乗り越えてきたか、また、今もどのように受けつがれているのか、を追究できるようにしたい。

これらの学習を通して、茨城県に対する誇りと愛情を育んでいきたい。

○「かかわり」を重視した指導について

◇学習の対象とのかかわり

笠間焼に対する興味・関心を高め、身近に感じさせるために、他教科で行った笠間焼作り体験を想起させる。また、子どもたちが本気で調べたいと思える問題場面を設定するために、笠間焼の危機と復活が分かる資料を提示する。学習問題に対して意欲的に追究したり、笠間焼にかかわっている人々の工夫や努力、思いや願いにふれさせたりするために、笠間市へ見学に行き伝統工芸士や協同組合、市役所、窯業指導所の方の話を聞くようにする。

◇学習者同士のかかわり

「笠間焼が復活したのは、なぜだろう。」という学習問題に対して多面的な見方や考え方ができるようにする。そのために、個人追究後に友達と報告会を行ったり、個人追究から考えた根拠をもとに全体で話し合ったりする場を設定する。その際、構造的な板書を通して、考えの違いやつながりがみえるように支援する。

◇自分とのかかわり

一人一人の思考を深めるために、友達や教師との対話の場やかかわりメモ（振り返り）を書く場を設ける。また、学習前と学習後で笠間焼に対する思いや考えの深まりを振り返ることができるようにするために、単元の終末に笠間焼のよさや将来の笠間焼と自分とのかかわりについて自分の言葉で表現する活動を設定する。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

みえる わかる	<p>「笠間市では、職人さんや協同組合の人、笠間市の人、茨城県の人などが協力しながら笠間焼を受けつぎ生かしてきたのだな。そうやって受けつがれてきた笠間焼を、これからも大切にしていきたいな。」</p>							
考える	<p>茨城県には、どのような伝統工業があるのだろう。①</p>	<p>笠間焼は、どのような焼き物なのだろう。②</p>	<p>笠間焼が復活できたのは、なぜだろう。③～⑩</p>	<p>これからどのように笠間焼とかかわっていけばよいだろうか。⑪</p>				
見える・分かる	<p>・茨城県には、たくさんの郷土工芸品があること</p>	<p>・笠間焼は、笠間市で作られており、茨城県の誇る伝統的工芸製品であること</p>	<p>・笠間焼は、職人の手による手作りであり、変化をしながら作り続けられてきたこと</p>	<p>・笠間焼の戦後危機と復興</p>	<p>・職人 ↓ 手作りのよさや新しいデザインを生かした製品作り ・協同組合 ↓ 県内外へ笠間焼を広めるイベントの開催 ・笠間市役所 ↓ 観光業とのタイアップ、補助金 ・窯業指導所 ↓ 職人の育成、土などの研究、新製品の開発</p>	<p>・震災後も笠間焼を受けつぎ生かしている笠間市の人々の思いや様子</p>	<p>・未来に笠間焼を受けつぎ生かすためには、自分たちのかかわりも大切であること</p>	
学習材	<p>○ 茨城県の郷土工芸品の産地の地図</p>	<p>○ 陶炎祭の写真 ○ 笠間焼実物 ○ 笠間のマップ・今昔の景観写真</p>	<p>○ 焼き物作り体験 ○ 笠間焼の作り方の写真 ○ 笠間焼の年表 ○ 笠間焼の製品・大量生産の製品</p>	<p>○ 窯元数の変遷のグラフ</p>	<p>○ 職人さんの話 ○ 協同組合の方の話・資料 ○ 笠間市役所の方の話・資料 ○ 茨城県窯業指導所の方の話・資料</p>	<p>○ 話し合いのための各自資料 (取材メモ・カード)</p>	<p>○ 震災で壊れた釜の写真 ○ 笠間の情報サイト「かさまど」</p>	<p>○ 全国こども陶芸展のポスター ○ 自分で作った笠間焼</p>

5 評価規準

関心・意欲・態度	笠間焼を受けつぎ生かしてきた人々の営みについて意欲的に追究し，地域の伝統工業を大切にしようとする。
思考・判断・表現	笠間焼にかかわる人々が協力して伝統を受けつぎ生かそうとしていることを考え，笠間焼のよさや将来の笠間焼と自分とのかかわりについて自分の言葉で表現している。
技能	聞き取り調査やインターネット，資料などをもとに必要な情報を集め読み取り，カードにまとめている。
知識・理解	笠間市で笠間焼がさかんになったわけや笠間焼にかかわる人々が協力し，これからも伝統を受けつぎ生かそうとしていることを理解している。

6 単元の指導と評価の計画（11時間）（①・②は時数，◇は評価）

①	茨城県には，どんな伝統的工芸品があるのだろうか？	◇茨城県には，どのような伝統的工芸品があるかを意欲的に調べようとしている。 (関心・意欲・態度)
②	笠間焼とはどのようなものだろうか？ ・笠間市で昔から作られている。 ・職人の方が一つ一つ手作りをしている。 ・昔と今では製品の種類が変化してきた。 ・笠間市では笠間焼が売られている陶炎祭が行われている。	◇笠間焼は，笠間市で作られ，茨城県が誇る伝統的工芸品だということを理解している。 (知識・理解)
③	笠間焼は，どのようにうつりかわっていったのだろうか。 ・戦争のころ窯元数が減っている。 ・戦後は窯元数がどんどん増えてきた。 笠間焼が復活できたのは，なぜだろうか？	◇グラフや年表から必要な情報を読み取っている。 (技能)
④	予想をもとに何をどのように調べたらよいか考えよう。 ・職人の方はどんな工夫をしてきたのだろうか？ ・協同組合って何をするとところだろうか？ ・笠間市ではどんな取り組みが行われてきたのかな？ ・茨城県窯業指導所ではどんなことが行われているのかな？	◇笠間焼の復活について，調べる課題を考えている。 (思考・判断・表現)
⑤	笠間焼を復活させてきた人々の思いや取り組みを調べよう。	◇笠間焼を守り生かしてきた人々やその取り組みについて自分の方法で課題を追究し，カードにまとめている。 (技能)
⑥	(1) 調べる。	
⑦		
⑧	職人の方の話から 市の商工観光課の方の話から 協同組合の資料から 県の窯業指導所の方の話から	
⑨		(2) 調べたことをまとめる。 (3) 報告会をする。 (4) 自分の考えをまとめる。
⑩		笠間焼が復活できたのは，なぜだろうか？ ・たくさんの人々が協力してきたから。 ・デザインを変えたり，笠間焼を広めたり，後継者を育てたりといった取り組みをしたから。
(本時)		◇様々な人たちが協力し，笠間焼を守り生かしてきたことを考えている。 (思考・判断・表現)
⑪	これからどのように笠間焼とかかわっていけばよいらうか。笠間焼のよさを広める PR カードをつくらう。 ・多くの人々に守り生かされてきた，茨城県自慢の伝統的工芸品 笠間焼。 ・これからは僕らの出番！茨城県の笠間焼をみんなに広めて守り続けよう。	◇笠間焼のよさや将来の笠間焼と自分とのかかわりについて自分の言葉で表現している。 (思考・判断・表現)

7 本時の指導

(1) 目標

笠間焼に携わってきた人々の関係を図にまとめることを通して、様々な人々が協力し、笠間焼を受けつぎ生かしてきたことを考えることができる。

(2) 授業づくりの課題

笠間焼に携わってきた人々やその取り組み，つながりに視点をおいた話し合いをし，子どもの発言を構造的に板書に整理していけば，様々な人々が協力しながら笠間焼を受けつぎ生かしてきたことを考えることができるであろう。

(3) 展開

学習活動・内容	児童への働きかけ・評価
<p>1 笠間焼に携わってきた人々を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>笠間焼が復活できたのは、なぜだろう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに調べてきた笠間焼に携わってきた人々を振り返ることで，本時の課題への意欲付けを図る。 ・本時は，前時にまとめた自分の考えをもとに学習問題を解決する時間であることを確認する。
<p>3 「笠間焼が復活できたのは、なぜだろう？」について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">《学習者同士のかかわり》</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発言をもとに，笠間焼に携わってきた人々の関係図を全体でまとめていく。 ・誰がどのような取り組みをしてきたのかを子どもが自由に発言していく。 ・前時までの考えをもとに，根拠を示しながら説得力のある伝え方をするように助言する。 ・人々のつながりに注目している子どもの発言を意図的に取り上げることで，つながりにも目を向けられるようにする。 ・つながりが見つけられていないところについてグループで話し合う時間を取り，様々なつながりに気付けるようにする。 ・子どもから出てきた人・取り組み・つながりなどを構造的に板書することで，それぞれが協力し合いながら笠間焼を受けつぎ，生かしてきたことに気付けるようにする。
<p>4 みんなで話し合いながらできあがった「笠間焼を復活させてきた人々の関係図」から，わかったことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>(1) かかわりメモに書く。</p> <p>(2) 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人々が協力してきたから。 ・デザインを変えたり，笠間焼を広めたり，後継者を育てたりといった取り組みをしたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いやできあがった関係図を通して，考えが深まったことを言葉で表現できるようにする。 ④ 様々な人たちが協力し，笠間焼を受けつぎ，生かしてきたことについて考え，表現している。(思考・判断・表現) ・なかなか書き出せない子どもがいたときは，関係図を一緒に振り返り，復活のキーワードを考えられるようにする。 ・笠間焼に携わってきた人々に共通する思いや願いについても考えられるようにする。